

広島大学

令和6年度 広島大学光り輝き入試

総合型選抜Ⅱ型

出題の意図

歯学部 歯学科

科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型

令和6年度入学者選抜

歯学部歯学科

小論文

出題の意図

問1

本問題は、「基礎研究」とはどのようなものかについて、研究の性格に基づく観点を文章から読み取らせ、受験生の基礎研究に対する考え方を問うものである。

総務省統計局による令和5年科学技術研究調査(用語の解説)のなかで、基礎研究とは、「特別な応用、用途を直接に考慮することなく、仮説や理論を形成するため又は現象や観察可能な事実に関して新しい知識を得るために行われる理論的又は実験的研究をいう。」と、説明されている。基礎研究は、新しい見解や原理、理論などを生むが、これらは商業的にすぐに利用可能なものではない事例も多い。しかしながら、問題についての新たな対処方法や技術の飛躍的向上、多分野での開発の基礎となるもので、私達の暮らしや社会の在り方を大きく変える可能性を秘めている。

2023年のノーベル生理学・医学賞には、新型コロナウイルスに対するメッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンの実用化につながる技術の開発に寄与した二名の研究者が選出された。mRNAと免疫システムとの相互作用の仕組みを解明し、それを回避する方法を発見したことが契機となっている。発見を応用することで新しい技術の発明につながったものである。

受験生の解答には様々な記述が予想されるが、解答の中で、受験生の論理的な思考力、展開力や表現力を評価する。また、アドミッション・ポリシーに掲げる受験生の科学的探究心、深い思考や独創的な視点を評価する。

広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型

令和6年度入学者選抜

歯学部歯学科

小論文

出題の意図

問2

本問題は「止揚」(アウフヘーベン)という哲学的な概念を理解し、具体例を通じてその概念に対する自分の考えを説明する能力を評価するものである。

医療の場、例えば患者の治療において、徹底した科学的エビデンスに基づく治療法(正)と、患者個別の状況や希望を重視した治療法(反)の間には対立がある。(正)の治療法は確かな効果は期待できるが、患者の希望を無視する場合がある。一方、(反)の治療法は患者の満足度は高めるが、科学的な裏付けに欠け、効果が期待できないことがある。この議論に「止揚」(アウフヘーベン)の思考法を適用すると、科学的エビデンスは治療効果の基盤となり、確実に治療を進める重要な要素である一方、治療には患者の協力が不可欠であり、患者の状況や希望を無視することなく治療法をカスタマイズすることも重要である。この点からもインフォームドコンセントの重要性が注目される、といった考え方が導かれる。

受験生の解答には、様々な例とともに様々な記述が予想されるが、解答の中で受験生の論理的な思考力、問題解決能力、文章の展開力・表現力を評価するとともに、将来の医療人としての価値観についても評価する。